

最優秀賞（林野庁長官賞）

高尾森林教室の思い出

八王子市立七国小学校

白神 雪花

森に入ったしゅん間、まわりの空気がひんやりしたような気がした。息をすると鼻がスツとして、のどもひきしまる。

今日は高尾森林教室当日。お天気もめぐまれて、空は青い。

わくわくしながらかいだんを登りはじめた。

道は急でゴツゴツとした岩もたくさんあった。この道は高学年でないと登れないようなけわしいといってもいいような道だった。改めて私たちは高学年あつかいされている、ということに自覚した。

頂上につくまで、いろんな生き物や植物と出会った。まだ見たことのない植物もたくさんある。私たちは森林のほんの一部しか知らない、そう思った。

へとへと足をもち上げてやっと頂上!! 頂上でいう空気はかくべつだった。おいしいお弁当を食べてから下山。つかれた足なみで、バスまで歩いた。今日学んだことを思い出しながらバスにゆすられ学校に帰る。そして一日目の高尾森林教室は、無事、終りようした。

ぶるぶると体にしん動が伝わってくる。今日は高尾森林教室二日目。まちにまった丸太切りだ。今は丸太を切っているさい中。だがなかなかうまくいかず苦戦中だ。かんたんだと思っていたが、なかなかむずかしい。

インストラクターさんによると日本のこのぎりはいくらおす時力を入

れも、引く時力を入れないと意味がなく切れないそうだ。引く時力を入れるよう意識するとガリガリと切れている感覚が伝わってきた。だがのこぎりがつつかえてうまく切れない。インストラクターさんに真上から刃を見てもらいたいわれたので見てみると刃は左に曲がっていた。だからつかえてしまったのだ。インストラクターさんは常に真上から刃が曲がっていないか確認しながら切ると言っていた。お手本を見せながら丁寧に教えてくれる。切る時は足を開く。刃全体を使って大きく切る。持ち手の下ろの方をもつ。ポイントを頭につめこんで楽しく切り終えた。だがインストラクターさんのあざやかな手ぎわにはまだまだおよばない。本当にすごいと思った。

太陽にすかして丸太を見ると赤くすけている。どこか神秘的であった。切りたてでない見れないといっていたのでよかった。

インストラクターさんに年輪を数えごらんといわれたので数えると十六本だった。二十才くらいだねといっていたのでびっくりした。直径六cmほどののに。だったらいつも見かけるあの太い木はいったい何才なんだと思った。

お次は森林教室。アニメで温暖化のことを知るにつれ私は怖くなった。もし私たちがこのまま何もなかったら未来、あんな事がおこる…今後のことは私たちの行動しだいで大きく変わる。私たちに平和な未来がたくされていくのだ。大げさかもしれないがそう思う。改めて森林の大切さに気づかされた。

